

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1294200082
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム白井富士
所在地	千葉県白井市富士73-89
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 23 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://mcs-ainoie.com/gh208.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	平成29年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『普通の暮らし』の実現の為に、ご入居者様一人ひとりへの生活を彩ることを大切にしております。これまで続けてこられてきた趣味や交友関係、また社会の共存を大切にし、ボランティアを受ける側だけになることなく、いつまでも『その人らしくあり続ける』ことをもっとも大切にしております。その為には『人』ということを大切に“地域との繋がり”・“家族との繋がり”・“私達との繋がり”など、さまざまな人と繋がり、そして私達自身も介護に対する考え方や社会人としてのマナーなど、人であることにこだわりを持ち続けております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では地域とのつきあいにおいて、認知症啓発運動のメモリーウォークや地域のお祭りへの参加、花紙作りの協力、赤ちゃんボランティア、犬の散歩やゴミ出しボランティアなどに加え、中庭で収穫したキュウリや栗のお裾分けでお互いの顔の分かる交流を進めている。 馴染みの人や場との関係継続の支援では、自宅で過ごせるように鍵を預かり、利用者の自宅の庭の果実が実る頃に訪れる。家族が同伴し同窓会へ出席する。デイサービスで一緒だった友人が来所するなど、本人が地域や地域住民との関係を継続できるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、運営理念の唱和を行い、理念の共有を行っているが、時として理念から外れた行動をとる職員がみられた場合には、その都度、話し合いの場を設け意識の向上に努めております。	身だしなみや歩行中のスマホ、車の中での喫煙の様子など、その行動が理念に沿っていない場合には、老若男女、正規・非正規を問わず即座に注意し、快適で穏やかなシルバーライフを過ごせるケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地域で開催されている会議へ出席し、白井市にある事業所としてそして、人として何かお役立て出来ることがないかどうか考えながら、様々なイベントをご入居者様と一緒にっております。	認知症啓発運動のメモリーウォークや地域のお祭りへの参加、花紙作りの協力、赤ちゃんボランティア、犬の散歩やゴミ出しボランティアなどに加え、中庭で収穫したキュウリや栗のお裾分けでお互いの顔の分かる交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格を持ち、地域の方へ認知症への理解を深める活動を行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者様の生活のご様子、外出時でのご様子、事故のご報告、今後の予定など詳細に報告し、意見交換の場を設けております。 また会議前にはご家族様と一緒に昼食を作ったりすることで、職員・ご入居者様・ご家族様の交流を大切にしております。	2ヶ月に一度、家族、高齢福祉課、民生委員、区長、地域包括支援C等が出席し、事業所と意見を交わしている。イチゴクラブなどのボランティア活動も当会議の提案でスタートした。当日は利用者とともに食事をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域で開催している会議に積極的に参加することで自然と地域包括と連携ができ、様々なイベントなどを連携して行うことが出来ております。	地域包括支援Cとは、諸会議で頻繁に状況の報告や意見交換をする機会がある。それらの情報は即座に高齢福祉課に伝わる。また、当事業所の職員が地域策定委員の委嘱を受け、住みやすい市作りに参画している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修で必ず実施しているとともに、ユニット会議や普段の関わり方なども踏まえ、身体拘束だけでなく心身の拘束とならぬよう、努めております。	個々の行動パターンを把握し、職員間のチームプレーで利用者を見守り、外出時には危険を避ける見守りがなされ、隣人の協力を得るよう努めている。玄関は施錠されているが利用者にもボタン操作で簡単に開閉できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修で実施しているほかに、虐待が発生していないかどうか、日々の言葉掛けから察知しております。また職員一人ひとりが抱えこまぬよう職員の心身にも気を配り、虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画を策定し、研修を実施又は研修の機会を確保しております。 またそのような場面が発生した際には、必ず地域包括へ報告、相談をさせていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改訂などが生じてしまう場合は、必ず事前にご報告や説明会の実施、またお便りやお電話などでご理解・ご納得いただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱の設置の他、弊社全体で行うご家族様アンケートなど、ご意見などをいただいた場合には必ず情報共有をし進捗や改善策などをご家族様へご報告しております。	利用者が構成する自治会で外出レクを決めるなど利用者の意見や提案を尊重し、自分の意思を表現できない利用者には目を合わせ意思を読み取っている。家族アンケートでは提供するサービスに満足が得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の職員アンケートの他、毎月のユニット会議内で担当職員から自由に意見交換が出来る場を設けるとともに、日々の職員の様子に留意しコミュニケーションを努めております。	カンファレンスには管理職だけでなく担当職員も出席し意見を述べている。また、事業所の運営や利用者の受け入れ、職員の交代など大事な事項は予め職員に相談し意見を聞き、それらを反映し決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の希望勤務体制が整えられるよう環境整備に努めております。 また、居室担当などの役割を通じて入居者様のケアにより向上心を持って働ける場を作っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの研修や他ホーム、外部研修などへ参加し、各自ステップアップ出来る環境を作っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域会議や白井市他事業所でのイベントなどを通じて、視野を広げられる環境を作っております。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを提供する際に、ご本人様が必要としていることが何なのか、アセスメントを通じて事前に把握し、安心の確保の為に関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安を少しでも早く解消できるよう、ご家族様の説明や要望に耳を傾け、親しい関係性の構築に努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と本人を交えた話し合いや状況の確認をし合うなかで、何が必要な支援をして求められているのか、その希望を伺い、その実現に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様を不安にさせないように『家族』のように共に仕事や話をし、生活の細かな場面にわたって共に過ごし合う支援を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様とが隔たることがないように、一緒に何かを楽しむ機会を設けたり、外出レクリエーションなどを共に楽しんだりの思いで作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が大切にしてきたご友人との手紙のやり取りや訪れたご友人をご本人様の部屋に招くなど、自宅と変わりなく過ごしていける支援を行い、尊重しております。	自宅で過ごせるように鍵を預かり、庭の果実が実る頃に訪れる。家族が同伴し同窓会へ出席する。デイサービスで一緒だった友人が来所するなど、本人が地域や地域住民との関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活において時に口論の場面もありますが、一緒に散歩したり家事をすることで、互いに支え合い、入院時にはお見舞いに行かれるなどの関係性が構築されております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	既にサービス利用が終了してしまっても、いつでも相談できる環境や関係性がある安心感を感じていただけるよう、季節の便りなどで連絡を取り合っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出レクリエーションなどもご入居者様同士での自治会を開催し、出掛けたい場所などをご入居者様の希望に沿った形で決定しております。	ユニット毎に利用者の自治会が有り毎月15日に開催し、会長・副会長は1年ごとに利用者の中で互選で決めている。一泊旅行等大きな行事の時は、合同の自治会で決めている。日々の会話(穏やかな時とそうではない時)を記録しておき、内容を確認し意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様とコミュニケーションを密にとる事で、生活歴やこれまで続けてこられた趣味なども出来る限り生活スタイルを変えぬよう、継続して行う支援に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やケア日報にしっかりと申し送り、情報を記入し、スタッフ間での情報共有や健康状態、心身の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1度ユニット会議を開催し、あらゆる視点からご入居者様に今必要であるべきこと、求めていることに努めております。 またご本人様のご様子も含め、ご家族様への相談や報告など関係性を密にとっております。	長期の目標や日々のケアについて、利用者の現状に焦点を当て家族が納得するまで一緒に話し合いをしている。このことについては、利用者アンケートでも全ての家族が納得している。日々の申し送りノートは休憩室において全員が閲覧・共有できるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫を情報共有し、介護計画にて見直しができるよう、ユニット会議にて反映意見交換などを行い、計画作成者による記録の確認を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを飛び越えて支援していくことこそがご本人様のニーズでもあり、時に自宅へ一緒に帰り草むしりや昼寝など可能な限り寄り添っていくことに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催されている会議に参加することで地域資源を知ることができ、毎月のボランティアを始め、またそれらをどのようにご入居者様へ提供できるかなどを考え支援を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療があった際には必ずご家族様へその内容を報告するとともに、ご家族様から依頼があった際には、日程調整なども行っております。また突発的な体調不良なども速やかに医師へ報告し、ご本人様を優先した支援を行っています。	月2回の往診時には職員が立ち会い情報交換をしている。また、必ず薬剤師も立ち会い利用者の一人ひとりの薬の管理をしている。歯科医については年1回の無料検診が有り、毎週1回の往診では希望者だけが受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子変化や相談など、朝の朝礼時や出勤時などに連携を密にしております。また受診の際の記録なども、看護師が目を通しやすいよう工夫を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のご様子や今後の予定など、ご家族様と一緒に医師からの報告などを伺うとともに、入院時のご様子など定期的に面会に伺うことで、情報交換などを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のご様子を感じられた際には医師やご家族様、そして職員と連携を密にとり、ご家族様と話し合いなどを何度も重ねながらチームでサポートしております。	今年度の看取りは1件あったが、居室を過ごしやすい室内に作り、家族がホームに20日間宿泊し最後まで利用者と共に過ごした。食事が取れなくなったり、変化があった時は家族へ連絡し2～3回のカンファレンスを行い医師と相談し、終末期と言われた時は指示を仰ぐようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初級対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を実施している職員もいるが、まだ救命講習を受講していない職員もあり、3月に実施予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施しており、夜間火災想定にて、近隣の方へ協力依頼をしました。あいにく参加までは至りませんでしたが、回数を多く重ね参加して頂けるよう目指しております。	5月に自主訓練として、夜間に利用者の居室から出火したことを想定し近隣の方々に声掛けし参加を呼び掛けた。自治会長が消防団員なのでお願いし易い。3月予定の消防署が来て行う訓練には参加することが確認できている。非常食は5日分の食料・水等を備蓄している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様一人ひとりを尊重し、その場面に応じたふさわしい言葉掛けに気を配っております。	職員研修の中ではプライバシー保護に関しては徹底して行っている。会議の中でも利用者に対して本人の気持ちを優先し尊重するように指導をしている。言葉かけについては、場面や利用者のその日の気分を見込んで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ずご本人様に選択していただけるよう、問いかけのように衣服の選択や食べ物など、場面に応じて自己決定の支援を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのスケジュールなどご入居者様も把握が出来るよう、カレンダーに予定を書き込み、天気などに応じてご入居者様からのニーズに応え、支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必ずお化粧をしていたご入居者様にはお声掛けをし、おしゃれを忘れずに行う支援を行っております。また男性も同様、腕時計や髪型などに気を配り声掛けや支援を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を感じていただけるよう、家庭菜園やご入居者様と食事を準備したりなど、食を楽しむ喜びに感じていただけるよう支援しております。	食事についての準備は職員がするが、料理によっては利用者がそれぞれ分担して野菜を切ったり味付けをしたり最後の片付け迄すべて利用者だけで行っている。時によっては台所の取り合いになることもある。食材についても利用者が折り込み広告等を見て決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の把握に努め、またご本人様が不快と感ぜないよう促しなども含め、職員間の情報共有、ご入居者様の支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔は肺炎防止へとも繋がる為、起床時や就寝前などに口腔ケアの促しと介助を行っております。また、必要に応じては週1度の訪問歯科のサービスを受けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、職員間で情報共有を行っております。またご本人様が発するトイレに対するサインなどを見逃さず、自立に向けた支援を行っております。	現在オムツの利用者はいないが、紙パンツやパット利用者がこの1年間で4名増え8名になった。食事や外出前には必ずトイレに行ってもらったり、24時間表でチェックし定期的に声掛けをしそれぞれの利用者のパターンの把握に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、自然に便秘が解消できるように、牛乳や自然食品などを用いて、また散歩や家事といった運動を通して、便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせ入浴を行い、『一緒に入ろう』と一人で入浴をされないご入居者様へは、職員と一緒に入浴をします。出来る限りご本人様が望む入浴スタイルを心掛け、支援を行っています。	入浴記録を見ながら声掛けをしているが、毎日入る利用者もいたり、心臓の関係で疲れてしまうと云って半月も入らない利用者もいる。利用者は皆元気なので通常は見守り程度だが、利用者から声掛けが有った場合は職員も一緒に入浴することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にご入浴をご希望される方は出来る限り実現となれるよう、また一人ひとりの入居者様の生活リズムを尊重し、朝食の時間や就寝時間は個人に合わせ支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時の状況やお薬の変更などが職員で把握できるよう、往診記録・健康管理記録の活用を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで続けてこられた趣味が諦めることのないよう、教会へ出向いたり、ゴルフへ出掛けたり、夜にはご入居者様同士での晩酌があったりとお気持ちの部分に配慮した支援を心掛けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や買い物に加え、犬の散歩のボランティア活動を行っております。またご入居者様同士、意見交換ができるような機会を“自治会”という形で設け、職員本位でなくご入居者様中心であることに心掛けております。	日々の散歩はグループ毎に全員で神社や公園を探索しながら行っている。また、スタッフの犬を散歩させることもある。遠出に関しては「自治会」で決め、家族と一緒に43名で房総半島旅行に行ったり、那珂湊魚市場迄食材を買いに行ったりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様の能力に応じてご本人様でお金を管理や所持しております。 買い物へ出掛けた際には、極力ご本人様にお支払していただけるよう、支援を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙や四季の電話など、自由に行えるよう、またお声掛けをしを行うことを続けられるよう、支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や装飾を行い、空間が気持ちよく、清潔であることに努めております。 また、ご入居者様がいつでも自由に安らぐことが出来るような環境整備に努めております。	外部に向けて玄関に音楽と写真のデジタルフォトフレームを設置している。ホームの中には庭で取れた花を利用者が活けたり、利用者が描いた絵や習字も飾られている。手分けしてエアコンも含め全館を職員・利用者が一緒に掃除を行う。歩くことが困難な人は手すりを掃除したりし常に清潔さを保つように心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースも広いことから、ご入居者様同士やお一人で過ごせるような空間スペースを確保しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様が以前使われていたオルガンや居室にはテレビや仏壇など、またカーテンの色などご本人様が気持ちが安らぐお部屋作りをご家族様へ行っていただき、サポートしております。	居室内にはタバコなど火気や危険物以外は自由に持ち込んでよく、本人が気持ちよく過ごせるように支援している。多額のお金は事務所で預かり、小額のお金はお小遣い程度に利用者本人が自由に使えるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはお一人おひとりに表札を掲げ、ご入居者様のご自分のお部屋と感じていただけるように、また自由に洗濯機を使用されております。		